

教育研究業績書

2018年05月14日

所属：共通教育部

資格：講師

氏名：G. C. デニソン

研究分野	研究内容のキーワード
Applied Linguistics (応用言語学), Second Language Acquisition (第二言語取得)	Fluency development, Speaking, Writing, Vocabulary, Extensive Reading (ER)
学位	最終学歴
修士 (M. S. Ed.)	Temple University, Graduate School of Education, TESOL 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 授業におけるフォーカス・オン・フォーム法とインタラクション重視のアプローチの両立	2016年04月～現在	インタラクション（関わり合い）を英語学習の中心に置くため、授業においてもペアワーク、グループワーク、共同学習を多く取り入れた。同時に、このようなコミュニケーション重視の教授法は明示的な文法説明で支えられるべきであるという方針のもと、有用で実用的な文法説明を、それがコミュニケーション活動に必要ななった時点で提供するというアプローチを採用した（逆向フォーカス・オン・フォーム法）。その結果、スピーキングおよびライティングにおける表現の誤りの減少につながった。
2. チャット・ルームの設立	2014年04月	英語学習のあらゆる面でサポートを提供する「チャット・ルーム」の設立に携わった。生徒は会話や面接練習から文法説明まで、様々なニーズを持って自由にチャット・ルームを訪れ、学習意欲の向上につながったと考えられる。
3. 多書 (Extensive Writing) の推進	2013年04月～2016年03月	ライティング能力を向上させるためにエクステンシブ・ライティングを積極的に授業に取り入れた。沢山書いてアウトプットすることにより、WPMの向上や長文がかかるようになるなどの様子が見られた。
4. 授業外活動としての多読 (Extensive Reading) の推進	2012年09月～2016年03月	機会があるごとに多読教材に取り組むよう、生徒に指導した。適切な内容を持った質の高いインプットを大量に提供することにより、読解能力の向上が見られた。

2 作成した教科書、教材		
1. コンピューター利用語学学習 (CALL) の活用	2016年04月～現在	語彙学習をより一層効率的にできるようにGoogle DocsやGoogle Sheetsを活用した。学生が参加し、自分たちが重要であると思う単語を選び、自分たちのためのリストを作成した。その結果、語彙学習意欲の向上が見られた。
2. ディスカッションスキル (Conversation Strategies) の教材の活用	2016年04月～現在	ディスカッション・スキルを向上させるために論議を授業において頻繁に取り入れ、自作のカードや参考書を使ってゲーム感覚でディスカッション・スキル (Conversation Strategies) を活用した。その結果、会話能力の向上につながったと考えられる。

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格、免許		
1. 全日本柔道連盟公認柔道指導者C指導員認定	2013年04月01日～2016年03月31日	
2. International TEFL Teacher Training 認定 TEFL 資格証書	2012年01月11日	
3. 日本傳講道館柔道参段	2011年09月28日	
4. 日本語能力試験 (JLPT) Level N1	2011年01月30日	

2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1. Course materials for Communication English III (査読付)	単	2016年04月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 104, 1-7.	この論文では、今までほとんど生産的な活動が行われてこなかったリーディングコースにおいて、ディスカッションを通してmeaning-focused inputとmeaning-focused outputを取り入れた活動を紹介している。その上、アカデミックな語彙をより一層効果的に学習できるための教材も紹介する。
2. Activities for developing suprasegmental skills in Japanese learners of English (査読付)	単	2016年04月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 105, 165-187.	英語の超分節的特徴は習得しにくいと言われていたが集中的に練習することで向上させることができる。この論文では、超分節的特徴(スプラセグメンタル)を練習できる3つの活動について紹介する。一つ目はストレスとイントネーションに注目し、二つ目はリンキングに注目する。三つ目はポーズを使って考えをはっきり分けることを練習する。
3. A syllabus for the Practical English course (査読付)	単	2015年10月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 102, 86-95.	この論文では、高校スーパーイングリッシュコースのプラクティカル・イングリッシュという授業のシラバスを提供する。このシラバスでは語彙学習に注目する一方で4技能フルエンシーに重点を置いている。シラバスの主な活動にはスピード・リーディング、スピード・ライティング、4/3/2スピーキング、単語テストなどが含まれている。
4. Conjunction-based sentence combining to develop complexity in fluent writing (査読付)	単	2015年03月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 98, 63-75.	外国語としての英語教育を数年間受けていても、複雑な文章が書けない学習者が多く存在し、さらに早く書こうとする際に短い文章や同じ文章を何度も繰り返し返すことで複雑な文章が書けていないという状況がある。この研究ではライティングの複雑性を増すセンテンス・コンバイニングという活動について調べた。高校1年のスーパーイングリッシュコース(N=53)の授業でセンテンス・コンバイニングの練習問題を順にやり、その結果対象者のライティングの複雑性(MLS、CPS)が上がった。その上、ライティングの速度(フルエンシー)にも微増が見られ、その研究結果やセンテンス・コンバイニングの練習問題について論じる。
5. Fluency development through extensive writing	単	2014年10月	Proceedings of the 16th Annual Temple University Japan Campus Applied Linguistics Colloquium, 53-59.	この論文では、中学校3年のスーパーイングリッシュコース(N=78)に取り組んだエクステンシブ・ライティング(多書)という活動について論じる。学生が自分のライティングの正確さに集中し過ぎ、長文が書けないという問題は珍しくない。その問題が解決できるようにエクステンシブ・ライティングを授業に導入した。学生がトピックを選び、7分間できるだけ速く長く書き続け、終わったら自分のチャートに記録し流暢性(フルエンシー)を向上するように試みた。研究の結果として、学生のライティング速度が徐々に上がったのを見られた。その上、エクステンシブ・ライティングがライティング・フルエンシーの向上やライティングに対する取り組み易さの向上には効果的な活動の一つであるかもしれない。
6. Developing writing self-concept in the L2 classroom (査読付)	単	2014年08月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 94, 17-21.	この論文では、セルフ・コンセプトという複雑な個人差の一つについて紹介する。なぜ、外国語の能力があるにも関わらず外国語に対する学習意欲がないというのはセルフ・コンセプトに基づいているかもしれない。学生のセルフ・コンセプトや学習意欲をどうやって向上させるかについて論じる。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. The effect of oral explicit corrective feedback on fluency within an interaction	単	2018年02月04日	20th Annual Temple University Applied Linguistics Colloquium (テンブル大学日本キャンパス大阪センター)	Studies examining the complexity, accuracy, and fluency (CAF) of production are abundant in task-based research literature. In addition, several studies have examined the effect of corrective feedback (CF) on CAF. However, studies have traditionally evaluated CAF measures of learners' productions on monologic narrative, opinion, and instructional tasks that do not allow for interaction. Although studies have examined the relationship between CF and the development of CAF, there is a gap for research examining the effect of CF on CAF within an interaction. In this presentation, I discuss a proposal for a study that will investigate the effect of immediate oral explicit corrective feedback on fluency.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
2. Bringing computer literacy development into language instruction	単	2017年06月03日	First Annual Japan Center for Michigan Universities Symposium (ミシガン州立大学連合日本センター、滋賀県彦根市)	ncy within an interaction, with an aim to bridge the research areas of task performance and CF . Many teachers are surprised to find that their students, many of whom are “digital natives”, do not actually have a high degree of computer literacy. Despite their use of modern technology in an almost daily capacity, they lack an understanding of the basics of computing technology and the ability to use computers for advanced problem solving in an efficient way. However, this poses a unique teaching opportunity for language teachers who have a knack for computers, a background in IT, or even a desire to bring computers into the language classroom in a practical context. I discuss collaborative projects and task-based learning activities that can be utilized to simultaneously develop the language proficiency, practical computer-based skills, and computer literacy of learners.
3. Kiva in the classroom	共	2017年05月27日	7th Annual Osaka JALT Back to School Conference (大阪女学院大学)	Imogen Custance & G. Clint Denison Finding ways to motivate students while encouraging greater awareness of global issues is becoming increasingly important in today’s global society. This presentation will examine some of the various ways in which micro-lending organizations can be used in class to engage students in philanthropy at a global level whilst also supporting language development.
4. Accurately measuring L2 listening self-efficacy	共	2016年11月27日	JALT 42nd Annual International Conference (愛知県名古屋)	Brandon Kramer & G. Clint Denison このプレゼンテーションでは、第二言語のリスニング・セルフ・エフィカシーを測るアンケート調査のMixed-Methods Validationについて論じる。定量分析の結果では、アンケート調査を正確に測定することができ、予想通りに第二言語に対する不安や学習能力との関係を示した。定性分析の結果には、日本の大学生の第二言語のリスニング・セルフ・エフィカシーの原因となるものを強調した。このアンケート調査は日本の大学生の第二言語のリスニング・セルフ・エフィカシーを正確に測ることに加えて、将来の実績を予想すると考えられる。
5. Principled topics for developing writing fluency	単	2016年11月26日	JALT 42nd Annual International Conference (愛知県名古屋)	試験においても、現実社会においても、第二言語学習者は速く、流暢に様々なトピックについて書く必要がある。しかしながら、今までにライティング活動で使われてきたトピックや、そのトピックとフルエンシーの関係についての研究が足りていないように考えられる。この研究では、どのトピックがライティング・フルエンシーにつながっているのかについて調べた。研究に基づき、どのトピックが評判がよく、書きやすく、文法的に多様性があるという問題について論じる。
6. Developing learners’ L2 writing fluency	単	2016年04月23日	6th Annual Osaka JALT Back to School Conference (大阪女学院大学)	時間制限などのプレッシャーがある中で自分のライティングの流暢性を向上させることが難しいと思う学習者が多数いる。しかし、幸運にもスピード・ライティングとトピックを上手く組み合わせればライティング・フルエンシーを向上させることができる。このプレゼンテーションでは、スピード・ライティングのプログラムをどのように授業に取り入れれば良いかや、適切な教材について論じる。
7. Specifications for vocabulary achievement test	単	2016年02月07日	18th Annual Temple University Applied Linguistics Colloquium (テンブル大学日本キャンパス東京センター)	このプレゼンテーションでは、語彙テストを作成するためのアイテム・スペシフィケーションを三つ紹介、提供する。このアイテム・スペシフィケーションを基に作成して、行った語彙テストの結果についても論じる。結果として、この語彙テストは他のテスト (e.g., TOEIC, 期末テスト) と相互関係を示し、語彙能力を測るのに役立つと考えられる。
8. Listening self-efficacy for Japanese students: A Rasch-based instrument validation	共	2016年02月07日	18th Annual Temple University Applied Linguistics Colloquium (テンブル大学日本キャンパス東京センター)	Brandon Kramer & G. Clint Denison このプレゼンテーションでは、学生 (N=185) の第二言語のリスニング・セルフ・エフィカシーを測るアンケート調査 (16 item) のRasch Validationについて論じる。結果には、アイテムの困難さの度合いがよく、確率的にRash Modelの条件に合致し、Unidimensional Constructにもなった。このアンケート調査は学習者の第二言語のリスニング・セルフ・エフィカシーを精密に測ることに加えて、将来の実績を予想するかもしれない。
9. Comparing Two Secondary School ER Programs	共	2015年11月22日	Extensive Reading Colloquium, JALT 41st An	G. Clint Denison & Imogen Custance このプレゼンテーションは、二つの高校においての

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
10. Narratives topics to develop writing fluency	単	2015年05月16日	nual International Conference (静岡県コンベンションアーツセンター) 14th JALT PanSIG Conference (神戸市外国語大学)	多読 (ER) プログラムについて論じる。一方では必要な語数が決められており、学生が沢山読まなければならない。もう一方では学生が自分のペースで読んで構わないとした。この二つのプログラムを比較すると英語に対する学習意欲が高く、必要な単語数が決められていなくても沢山読む学生がいるとはいえ、相対的に単語数が決められていたプログラムの学生の方が沢山の単語を読んでいるということがわかる。その上、単語数の設定がきっかけになり、ERや読書を積極的に取り組むようになることもある。 時間制限などのプレッシャーがある中で自分のライティングの流暢性を向上させることが難しいと思う学習者が多数いる。そのため、授業でライティング・フルエンシーを発達させる必要があると考える。ナラティブ・トピックとスピード・ライティングの組み合わせによって学生が教師とコミュニケーションをとる機会が増え、ライティング・フルエンシーを向上させることができる。このプレゼンテーションでは、一年間を通して高校の授業で活用したスピード・ライティング活動とその活動で用いたトピックについて論じる。また、結果として流暢性の向上 (WPM) が見られた。
11. Conjunction-based sentence combining to develop complexity in fluent writing	単	2015年02月08日	17th Annual Temple University Applied Linguistics Colloquium (テンブル大学日本キャンパス大阪センター)	外国語としての英語教育を数年間受けていても、複雑な文章が書けない学習者が多く存在し、さらに早く書こうとする際に短い文章や同じ文章を何度も繰り返すことで複雑な文章が書けていないという状況がある。この研究ではライティングの複雑性を増すセンテンス・コンパニングという活動について調べた。高校1年のスーパーイングリッシュコース(N=53)の授業でセンテンス・コンパニングの練習問題を順にやり、その結果対象者のライティングの複雑性 (MLS、CPS) が上がった。その上、ライティングの速度 (フルエンシー) にも微増が見られ、その研究結果やセンテンス・コンパニングの練習問題について論じる。
12. Fluency development through extensive writing	単	2014年02月09日	16th Annual Temple University Applied Linguistics Colloquium (テンブル大学日本キャンパス大阪センター)	この論文では、中学校3年のスーパーイングリッシュコース(N=78)に取り組んだエクステンシブ・ライティング (多書) という活動について論じる。学生が自分のライティングの正確さに集中し過ぎ、長文が書けないという問題は珍しくない。その問題が解決できるようにエクステンシブ・ライティングを授業に導入した。学生がトピックを選び、7分間できるだけ速く長く書き続け、終わったら自分のチャートに記録し流暢性 (フルエンシー) を向上するように試みた。研究の結果として、学生のライティング速度が徐々に上がったのを見られた。その上、エクステンシブ・ライティングがライティング・フルエンシーの向上やライティングに対する取り組み易さの向上には効率的な活動の一つであるかもしれない。
13. 英語活動ってどうなの (Do you know)?	共	2008年10月17日	文部科学省指定小学校国際理解教育研究発表会シンポジウム (篠山市立岡野小学校)	吉田達弘、藤田聖子、G. Clint Denison、石田靖、& 安井健二 小学校で「外国語活動」が必修科目になり、初めて英語を教える小学校の先生が増えている。生徒が英語が好きになるように、どのように先生が英語を教えればよいかという問題について考える。
3. 総説				
1. Recent research in extensive reading	単	2017年11月	Extensive Reading in Japan, 10(2), 24-27.	A review of the most recent research on extensive reading, extensive listening, and related topics.
2. Recent research in extensive reading and listening	単	2017年05月	Extensive Reading in Japan, 10(1), 20-23.	A review of the most recent research on extensive reading, extensive listening, and related topics.
3. Recent research in extensive reading and listening	単	2016年09月	Extensive Reading in Japan, 9(2), 22-25.	A review of the most recent research on extensive reading, extensive listening, and related topics.
4. Recent research in extensive reading	単	2016年06月	Extensive Reading in Japan, 9(1), 20-23.	A review of the most recent research on extensive reading, extensive listening, and related topics.
5. インタビューを通して英語への興味を深める	単	2009年11月	兵庫教育、第61巻、第8号、46-49頁	この論文では、英語能力を鍛えながら英語に対しての興味を深める、小学校で活用できる様々なインタビュー活動を紹介する。初めて英語を教える小学校の先生を対象とし、使いやすく、変更しやすいレッスンプランを提供する。
4. 芸術 (建築模型等含む) ・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. Vocab@Tokyo: Current trends in vocabulary studies	共	2016年09月	Meiji Gakuin University and the JALT Vocabulary SIG	編著 Brandon Kramer, Imogen Custance, <u>Clint Denison</u> , & Steve Porritt. The guidebook for the Vocab@Tokyo conference held in Tokyo, Japan from September 12-14, 2016. In addition to crucial conference information, the guidebook contains a variety of extended abstracts from presentations and papers that were discussed at the conference, making it a valuable resource for researching vocabulary learning and instruction.
2. Activities for teaching pronunciation to Japanese learners of English	共	2016年04月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 105.	編著 <u>G. Clint Denison</u> , Nicole Furuya, Samuel So renson, & Eddy Tang. この論文集では、英語を勉強する日本人のための発音練習のオリジナル教材や活動のアイデアを提供する。英語のセグメンタルやスプラセグメンタル特徴の練習ができる活動も含まれている。日本人や日本の学校のために作られた教材であるが、様々な状況に応じて活用できると考えられる。
3. Individual differences in second language acquisition	共	2014年08月	Temple University Japan Studies in Applied Linguistics, 94.	編著 Natalie Barbieri, Kate St. Hilaire, & <u>G. C. Clint Denison</u> . この論文集では、多様な文化的背景と言語習得のレベルの異なる学習者に対し、教師が活用できる様々なアイデアや活動を提供している。学習者の違い (Individual Differences) として、モチベーション、アイデンティティ、セルフ・コンセプト、第二言語への不安、学習スタイル、他者と対話する意思、性別等についての研究を紹介する。
6. 研究費の取得状況				
1. 英語教授法 (TEFL) 取得支援補助金	単	2012年01月	自治体国際化協会 (CLAIR・クレア)	A competitive grant from the Council of Local Authorities for International Relations (CLAIR) to aid in the completion of a TEFL certification course.

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年3月～現在	JALT Testing & Evaluation SIG
2. 2013年12月～現在	JALT Vocabulary SIG: Proofreader for Vocabulary Education and Research Bulletin (VERB)
3. 2013年12月～現在	Japan Association for Language Teaching (全国語学教育学会)
4. 2013年12月～現在	JALT Extensive Reading SIG: Proofreader for Extensive Reading Japan (ERJ) and the Journal of Extensive Reading; Column editor: Recent Research in Extensive Reading (ERJ)